



山形県感染症発生動向調査

平成28年第1週(1月4日～1月10日)

山形県感染症情報センター(山形県衛生研究所)
 TEL.023-627-1109, FAX023-641-7486
 URL <http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/>
 2016年1月13日 発行

<定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

※ :警報レベル

 :注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県)
	第53週	第53週	第1週	増減	第53週	第1週	増減	第53週	第1週	増減	第53週	第1週	増減	第53週	第1週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(48)			(20)			(5)			(10)			(13)			
インフルエンザ	4290 0.89	12 0.27	88 1.83	▲	4 0.22	32 1.60	△	1 0.25	6 1.20	▲	2 0.20	39 3.90	▲	5 0.38	11 0.85	△	88
小児科定点 (定点医療機関数)		(30)			(13)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	3173 1.03	17 0.61	16 0.53	▼	3 0.25	7 0.54	△		1 0.33	△	11 1.83	8 1.33	▼	3 0.38		▽	16
咽頭結膜熱	1024 0.33	17 0.61	25 0.83	△	4 0.33	16 1.23	△	1 0.50		▽	8 1.33	3 0.50	▼	4 0.50	6 0.75	△	25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3995 1.29	106 3.79	136 4.53	△	40 3.33	57 4.38	△	2 1.00	4 1.33	△	48 8.00	56 9.33	△	16 2.00	19 2.38	△	136
感染性胃腸炎	13852 4.49	134 4.79	336 11.20	△	55 4.58	161 12.38	△		21 7.00	△	55 9.17	84 14.00	△	24 3.00	70 8.75	△	336
水痘	1456 0.47	7 0.25	28 0.93	△	4 0.33	20 1.54	△	2 1.00	4 1.33	▲		2 0.33	△	1 0.13	2 0.25	△	28
手足口病	136 0.04	1 0.04	5 0.17	△							1 0.17	1 0.17			4 0.50	△	5
伝染性紅斑	985 0.32	32 1.14	92 3.07	△	10 0.83	29 2.23	△		2 0.67	△	1 0.17	3 0.50	△	21 2.63	58 7.25	△	92
突発性発しん	645 0.21	5 0.18	27 0.90	△	2 0.17	9 0.69	△		1 0.33	△	2 0.33	10 1.67	△	1 0.13	7 0.88	△	27
百日咳	17 0.01																
ヘルパンギーナ	44 0.01																
流行性耳下腺炎	1715 0.56	34 1.21	75 2.50	△	1 0.08	12 0.92	△	2 1.00	3 1.00	△	17 2.83	30 5.00	△	14 1.75	30 3.75	▲	75
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	5 0.01																
流行性角結膜炎	262 0.39	2 0.29	3 0.38	△		3 0.75	△	1 1.00		▽	1 1.00		▽				3
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	42 0.09																
クラミジア肺炎	5 0.01		1 0.10	△		1 0.25	△										1
マイコプラズマ肺炎	205 0.43	1 0.10	3 0.30	△		2 0.50	△	1 1.00		▽					1 0.33	△	3
細菌性髄膜炎	8 0.02																
無菌性髄膜炎	11 0.02		1 0.10	△											1 0.33	△	1

<全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	庄内	置賜	
レジオネラ症	患者	1				
カルバペネム耐性腸内細菌感染症	患者	1		1		
梅毒	無症状病原体保有者	1				
	患者	1				

<通信欄>

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

< 定点把握感染症 報告患者数 年齢別 >

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ	2		9	1	5	4	4	3	2	7	2	19	4	7	
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79	80歳～									合計
	2	5	8	2	1	1									88
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	4	4	5	2		1									16
咽頭結膜熱		2	4	2	7	2	6	1	1						25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	6	9	13	15	26	18	15	8	5	14	1	4	136
感染性胃腸炎	7	28	79	37	22	25	21	26	12	15	17	29	6	12	336
水痘		2	3		4	6	3	2	6		1	1			28
手足口病				1		1	2			1					5
伝染性紅斑			2	6	9	20	16	10	11	6	7	5			92
突発性発しん		12	13	1	1										27
百日咳															0
ヘルパンギーナ															0
流行性耳下腺炎			3	5	8	23	15	10	3	1	1	3	2	1	75

< 平成27年12月 月報 >

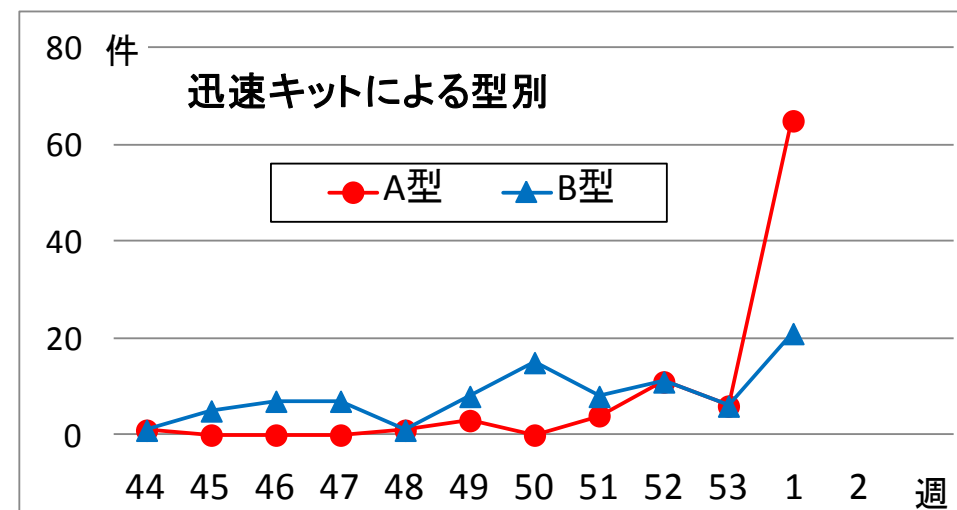
2016年1月13日作成

疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～12月
	11月	12月	11月	12月	11月	12月	11月	12月	11月	12月	
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)		
性器クラミジア感染症	報告数 22	12	7	4	3	5	4		8	3	222
	定点当り 2.20	1.20	1.75	1.00	3.00	5.00	2.00		2.67	1.00	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数 4	8		2	1	3	3	2		1	86
	定点当り 0.40	0.80		0.50	1.00	3.00	1.50	1.00		0.33	
尖圭コンジローマ	報告数 1	1		1	1						31
	定点当り 0.10	0.10		0.25	1.00						
淋菌感染症	報告数 2	2		1				1			25
	定点当り 0.20	0.20		0.25				0.50			
基幹定点 (定点医療機関数)	(9)		(4)		(1)		(2)		(2)		
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数 7				2				5		58
	定点当り 0.70				2.00				1.67		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数 25	14	12	7	4	1	2	2	7	4	283
	定点当り 2.50	1.56	3.00	1.75	4.00	1.00	1.00	1.00	2.33	2.00	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数 3										3
	定点当り 0.33										

<トピックス>

【インフルエンザ情報】

1 迅速診断キットによるインフルエンザウイルスの陽性件数(第1週)



	A型	B型
村山	22	8
最上	3	3
置賜	31	8
庄内	9	2
合計	65	21

2 集団発生状況(県健康福祉企画課まとめ 第1週)

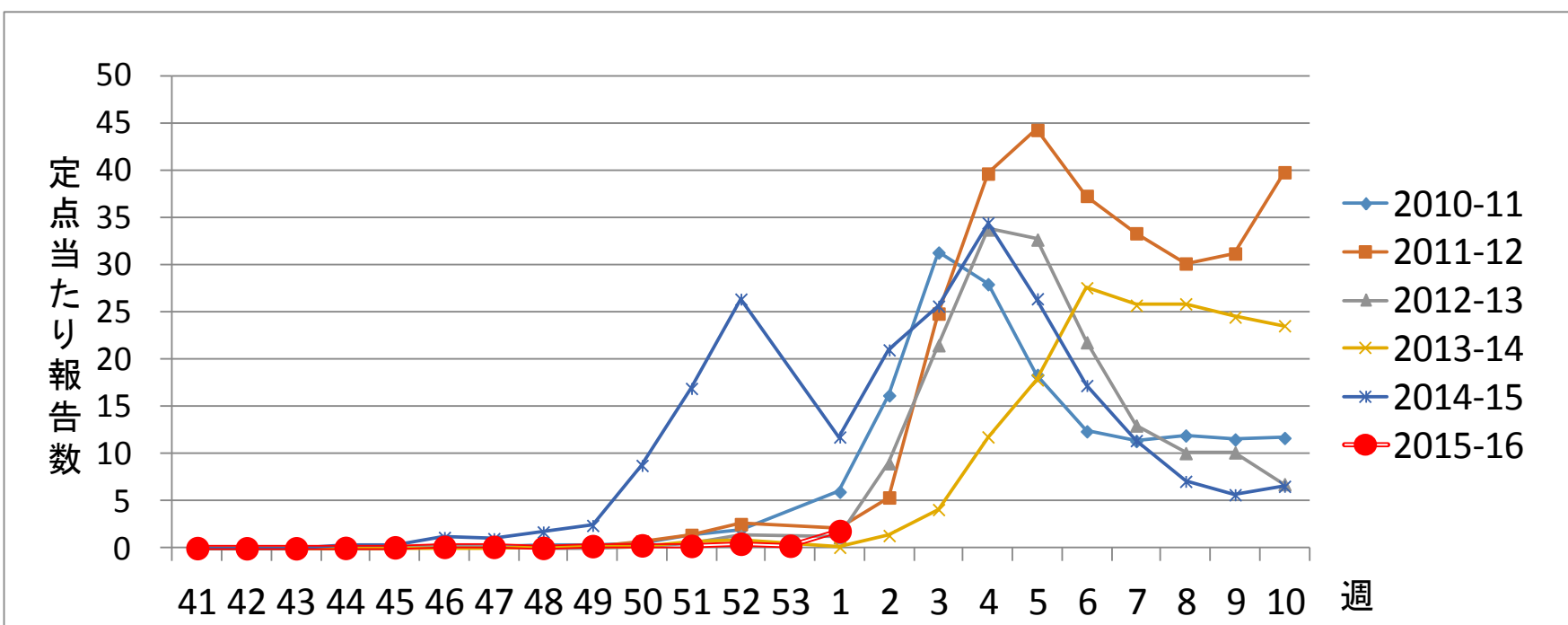
置賜地区: 米沢市 1件(障がい者支援施設 1)

3 インフルエンザウイルス分離状況(衛生研究所 1月6日現在)

今シーズンの県内の患者から、AH1pdm2009 3株、B型 9株が分離同定されています。

※例年、年明けに患者数が増加します。

外出後の手洗い・咳エチケットを心がけ感染予防に努めましょう。



【伝染性紅斑(リンゴ病)情報】

伝染性紅斑の定点あたり報告数が、村山地区、庄内地区で警報レベルとなっています。

・伝染性紅斑
警報開始基準値: 2人 警報終息基準値: 1人
・第1週 定点あたり報告数
村山地区: 2. 23人 最上地区: 0. 67人
置賜地区: 0. 50人 庄内地区: 7. 25人

伝染性紅斑とは

ヒトパルボウイルスB19というウイルスに感染することによっておこる感染症です。主に小児にみられる疾患ですが、成人もかかる場合があります。

【症状】10～20日の潜伏期間の後、両頬に鮮やかな赤い発疹が現れ(写真1)、続いて手足にもレース様の発疹が現れます。多くの場合、頬に発疹が現れる7～10日位前に微熱や風邪の様な症状がみられます。この時期に感染力が最も強く、発疹が現れた頃には感染力はほぼ消失しています。

予後は通常良好ですが、妊婦が感染した場合、胎児水腫または流産を起こすことがあるので注意が必要です。

【予防法】伝染性紅斑にはワクチンはありません。また、感染力のある時期には特徴的な症状を示さないため、日頃からの手洗い・うがいが重要です。



写真1: 両頬の発疹

(国立感染症研究所HPより)

※参考URL: IDWR 感染症の話 伝染性紅斑

http://idsc.nih.gov.jp/idwr/kansen/k04_23.html